

アジアのこぼれを学ぶ ②

『小溪』せせらぎと『물결』なみの創刊

「アジアのこぼれを学ぶ」では教師だけでなく学習者の視点も取り入れながら中国語と韓国朝鮮語教育の現状を紹介していきます



TJFは、高等学校の中国語担当教員を対象とするニュースレター『小溪(シャオシー)』を4月に創刊しました。また同じ4月に高等学校韓国語教師研修会の世話人会だより『물결』年2回刊が創刊されました。

小溪という誌名には、「高校中国語教育」を支えている教師が協力して小さな流れを大きな流れにしていこうという願いがこめられています。TJFに寄せられた中国語教育関連の情報をみなさんに伝えるとともに、中国語教師になったいきさつや中国・中国語との出会い、授業の工夫などをこのニュースレターを通じて共有していただけたらと願っています。

물결(ムルキョル)は波という意味で、韓国朝鮮語教育に取り組む教員一人ひとりの活動が波紋となって広がっていくことを願って名づけられました。

日中教師間のネットワークづくりに向けて

『小溪』創刊号に、日本の高等学校で中国語を教える教師と中国の中高校で日本語教育に携わる教師が核となって進めている「友好クラス」交流について、大連市教育学院の日本語教員孫浴光氏が寄稿してくれましたので、その一部を紹介します。

中国教学日语の初中、高中教師和学生基本上都是在课堂和书本上学习日语，甚至有很多人学习了多年日语，还没有见过日本人，没与日本人谈过话通过信。因此，他们学的日语与日本人真正使用的日语，还有一定距离，更谈不上对日本文化的理解。他们现在非常希望与教学汉语的日本高中师生进行交流。在交流中加强对日本文化的理解，促进日语教学，同时交流中也可以促进你们的汉语教学。(原文)

中国の中学・高校の日本語学習は、教師にとっても生徒にとっても教室と教科書に限定されています。何年も日本語を学んでも、日本人と一度も会ったことも手紙のやりとりをしたこともないものがほとんどです。授業で習う日本語は日本人が普段使っていることとは隔たりがあり、ましてや日本文化の理解などは及びもつかないのが現状です。彼らは中国語を教えている日本の高校の教師、学習している生徒との

交流を強く望んでいます。「友好クラス」交流は、日本文化に対する理解を深め、日本語の学習を促進するとともに、中国語の学習を促進すると信じています。

(TJFにて和訳)

休刊となっていた中国の日本語教師向けの『日中通信』は、『小溪』の姉妹紙として装いを新たに再発行する予定です。二つの紙面をリンクさせることで、お互いの言語を教えている日本と中国の教師の間で意見や情報の交換ができるようにしたいと考えています。

韓国朝鮮語の教師たちが投じる波紋

『물결』創刊号には、上記研修会の世話人の自己紹介や授業への取り組み、韓国朝鮮語に対する思いなどが掲載されています。その一部を紹介します。

自分で韓国語を選んだとはいうものの、やはりどこどなく腰のひけていた生徒たちが、「久しぶりに興味をもてる授業だ」ニュースにハングルがでけると、思わずよんでしまう」と、身を乗り出してはしゃいでいます。「韓国人のことをなんとなくさけていたけど、思っていたのと全然ちがってびっくりした」横浜でチマチョゴリを着てる子がアンニョン? って言ってるのをきいてびっくりした。ハングルなんかやってなかったら、きづかずにとおりすぎていたと思う」と、新しい出会いに戸惑いながらも、心躍らせている生徒までいます。「もうきめたことだから……でもなんか……まあ、だめならめりゃいいさ」と、実のところ、いざ出陣という段になって、ちょっと気弱になっていた私に、可能性を信頼する勇気を与えてくれたのは彼らでした。いつか、あの「無念さ」は喜びに変わっていきました。未知のものを発見するといふ、そしてそのたびに新しくなっていく自分自身を見いだすという喜びに。

こんな刺激的な道行きを、再び生徒とともにすることになりました。99年度自由選択の韓国語講座には7名(!)もの生徒が集まり、4月に開講しました。今の学校にきて3年目、なかなかいいペースです。

【神奈川県立岸根高等学校 山下誠教諭】